暴力根絶に向けての指導者心得

帯広地区ミニバスケットボール連盟

　日本ミニバスケットボール連盟より，「ミニバスケットボールの活動における暴力・暴言の根絶に向けて」という提言が出され，その考えが全指導者に浸透してきておりますが，さらに啓発を進めるために，審判の立場からルールの厳正な処置についてお伝えします。

　指導者における「暴力・暴言」や試合中のベンチマナーなどを，ルールに基づいて厳正に処置しておりますが，指導者だけでなく応援する保護者の皆様も，ルールを正しく理解されて 『友情・ほほえみ・フェアプレー』というミニバスの基本理念の実現のために，ご協力をお願いします。

試合中のベンチマナーについて

　 ベンチスタッフのプレイヤーに対する体罰はもちろん，罵声や暴言，審判に対するクレームに対しては，競技規則を厳密に適用します。

　ゲーム中，ミスをして一番ショックを受けているのは選手です。プレイが身についていないのであれば指導者の責任ですし，約束事を忘れていたのであれば，思い出させるような指導を心掛けるべきです。罵声は，ショックを受けている選手をさらに傷つけているだけです。

**【 指導者の言動に対しての厳正な処置 】**

　　※　対処として下記に当てはまる言動が見られた場合，ゲームを中断し処置を行う。

　　①　選手個人を否定・中傷するような言葉（例：バカ，アホ，死んでしまえ，など）

　　　　　１回目・・行き過ぎた言葉であることを指導者に伝える。(注意）

　　　　　２回目・・テクニカルファウルとして処置をする。

　　　　　３回目・・同様にテクニカルファウルとして処置をする。よって累計２回のテクニカルファウルにより，指導者は退場処分になる。

　　②　選手に対しての身体的暴力（例：殴る，蹴る，平手打ちなど）

　　　　　１回目・・テクニカルファウルとして処置をする。

　　　　　２回目・・同様にテクニカルファウルとして処置をする。よって累計２回のテクニカルファウルにより，指導者は退場処分になる。

　　　　　　　　※　悪質なものについては，１回目で退場処分もある。

　　③　審判・ＴＯ・相手チームなどに対し失礼な態度と言動

　　　　　１回目・・テクニカルファウルとして処置をする。

　　　　　２回目・・同様にテクニカルファウルとして処置をする。よって累計２回のテクニカルファウルにより，指導者は退場処分になる。

　　　　　　　　※　特にもっとも振る舞いが悪質なのであれば，ディスクォリファイングファウル（退場）を宣してもよい。

**【 応援席の言動に対しての厳正な処置 】**

　　応援席からの審判に対するクレーム，選手に対する罵声や暴言

　　≪処置≫

1. 指導者へ応援席で不適切な言動があることを伝える。（注意）
2. それでも改善されない場合は，コーチにテクニカルファールが科せられる。

**ミニバスケットボール競技規則**

第８章　　行為についての規定

第43条「コーチのテクニカル・ファウル」

　　　　　コーチがスポーツマンらしくないふるまいをした場合もテクニカル・ファウルが宣せられる。この場合相手チームに２個のフリースローが与えられる。フリースローが成功してもしなくても，フリースローのあとはオフィシャルズ・テーブルから遠い方のセンター・ラインのアウトでシューター側のチームにスロー・インのボールが与えられる。

　　　　　コーチはマナーの面でもチームの指導者であるべきで，自らも見苦しい言動があってはならない。コーチが審判，テーブル・オフィシャルズ，相手チーム，自チーム等に対し，失礼な態度や言動などがあった場合は厳しく罰するべきである。

　　以上がルールに基づいた審判のとるべき処置ですが，これで終わりではありません。全国大会では暴力事案に対して，即刻大会会場から退場させたうえで，後日，指導者の資格はく奪，連盟の指導者登録抹消，指導の一定期間の自粛など内容に応じた処分がなされております。

　　地区ミニバスケットボール連盟としましても，悪質な暴力などについては，日本ミニ連盟の処分に準じた処分をしなくてはなりません。そのようなことがないように，

　皆さんで楽しいバスケットボールを目指しましょう。